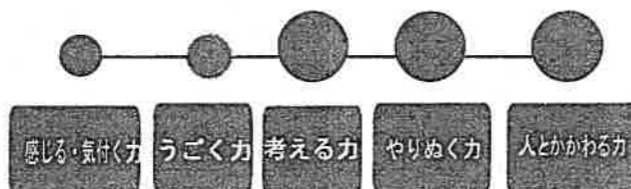


## 事例

満3歳クラス  
(1月)

ままごと大好き



### 【活動の様子】

A児はままごと遊びが好きで、異年齢児と遊ぶ時には子供役になったり、友だちと遊ぶ時にはお母さん役になったり、ぬいぐるみを赤ちゃんに見立てたりと、いつも友だちと一緒に楽しんでいる。

今日は、B児と2人で机いっぱいに料理を並べている。小さなお鍋に細長い食材の先に違う食材をくっつけた物が、数個立てかけるように入っている。「これは何の料理ですか?」と教師が尋ねる。すると「これは、お花～」と答えるA児。

しばらくして様子を見に行くと、机の料理が減ってA児とB児のお腹が膨らんでいる。教師がびっくりして「そのお腹どうしたの?」と声をかけると、「見てー」と言って食べ物を服の中に入れて見せる。「いっぱい食べたんだね」と言うと、お腹を押さえて「お腹いっぱい」と2人顔を見合わせて笑っている。

次の日、ままごとコーナーにはB児とC児がいる。「お腹いっぱいにしょっか」と言って、B児が食べ物を服の中に入れてお腹を膨らませて見せる。それを見てC児もまねて同じようにしながら楽しんでいる。

### 【遊びの中で育まれている力】

ごっこ遊びを展開しやすいように、ままごとコーナーを設置しておく。

- ・色々な役になって友だちと遊びを楽しむ。  
【人とかわる力】

- ・A児は家庭環境の中から食卓に花があるイメージを膨らませ、食材を花に見立てて飾っている。  
【考える力】

遊びがどう展開していくのか見守ろう。

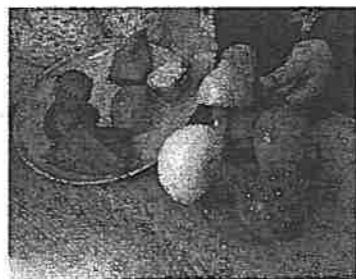
- ・食べたからお腹が大きくなるというイメージを表現している。  
【考える力】

お腹いっぱいを表現した姿に共感したい。

- ・友だちと共感する喜びを感じている。  
【人とかわる力】

- ・気に入った遊びを繰り返し楽しむ。  
【やりぬく力】

- ・友だちのまねをしながら遊びを楽しむ。  
【人とかわる力】



### この遊びの中での学びを支えたもの

#### 【ままごと遊び】

満3歳児のままごと遊びでは普段の生活から自分の経験していることを再現して楽しみながら、安心して遊んでいる。

#### 【友だちとの共感につながる教師の声かけ】

お腹いっぱいというイメージを共有して遊ぶ中で、教師に声をかけられたことでお互いに顔を見合わせ、共感する喜びを感じている。この経験が「面白かった、またやりたい」という意欲につながっている。

#### 【遊びの続きができる環境】

ままごとコーナーを常に設置しておくことで、繰り返し遊んだり遊びの続きができ、遊びや人との関わりが広がっている。

### 事例を作成してみて…

ままごとコーナーは子供たちの大好きな遊びであり、毎日誰かが遊んでいる。

今回は、A児が食材で花を表現し食卓を再現したり、お腹いっぱいというイメージをお腹を膨らませて表現する姿から、普段の生活から自分が経験していることをごっこ遊びで展開していることがうかがえる。

園や生活の中で経験したこと、していることを再現したり、友だちとやりとりをする中で人間関係も広がるごっこ遊びの大切さを感じた。また、繰り返し遊ぶ中で「またしよう」「次はこれをしよう」という意欲につながるために、遊びの続きができる環境を整えておくことも大切であると感じる。

子供たちのイメージが広がり遊びがますます楽しい物になるよう、教師も遊びの中に入り一緒に楽しんでいきたい。